

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

宮崎小学校

全国学力・学習状況調査について

- 令和6年4月18日(木)、6年生を対象に調査が行われました。
- 教科に関する調査(国語、算数)は、学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問うものとなっています。
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査があり、オンライン方式で実施しました。
- 調査問題や全国の様子は、国立教育政策研究所HPで見ることができます。
- 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご了解ください。

調査結果を学校改善に活用します

学校では、調査問題を全教員で解いたり採点したりして、児童の学力や学習状況を把握しています。また、結果を分析し、教員の研修、授業や生活指導等の改善に役立てながら、継続的な検証改善のサイクル確立につなげています。

本校の教育活動の指針となるスクールプランは、右の三つを柱としています。

今回の調査結果について、スクールプランをもとに、以下のように現状と課題をとらえました。今後の実践を通して改善していけるよう、教職員が一丸となって取り組みます。

〈 学校経営の重点目標 〉

1 主体的な学びづくり

○授業改善による確かな学力の育成

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた主体的な授業研究
- 2 学びを確かめ、共有し、つなげる振り返り

○カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善

- 3 教科領域等をつなぎ、学びをつなぐ学習計画
- 4 地域に学び、地域を考えるふるさと学習

自立した学びを手を育てる

2 創造的な学びづくり

○児童が主体となる学び

- 1 主体的に考え、すすんで活動
- 2 伝え合い、かかわり合い、認め合うなかま
- 3 試行錯誤しながら学ぶ過程を重視

○健やかな心と体づくり

- 4 みんなでつくる安全・安心な学校
- 5 自らつくる健康な体、健康な生活

3 成長を支える環境づくり

○共に歩む教職員集団

- 1 ワークライフバランスを意識し、心身ともに健康に、効率よく働く
- 2 目標をもって主体的に学ぶとともに、協働することで学び合う

○家庭・地域との連携・協働

- 1 願いや思い・課題を共有し、評価・改善する
- 2 地域の資源を生かした学びを共につくる
- 3 15年間の学びを見通した保小中連携

1 国語

(1) 言葉の特徴や使い方に関することからについて

◆文の中で使われている言葉を漢字で書く問題(競技、投げる)に課題がありました。

◆文の中における主語と述語の関係を捉えることに課題がありました。

(2) 情報の扱い方に関する事項について

◇情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことが、よくできていました。

(3) 話すこと・聞くことについて

◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することがよくできていました。

◇資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することは、よくできていました。

(4) 書くことについて

◇目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することがよくできていました。

◇目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは、おおむねできていました。

(5) 読むことについて

◇登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えることや人物像を具体的に想像することがよくできていました。

◇人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることが、よくできていました。

2 算数

(1) 数と計算について

◇数量の関係を式に表すことや、割る数が小数の割り算がたいへんよくできていました。

◇計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できていました。

(2) 図形について

◇直方体の見取り図について理解してかくこと、立方体の体積の求め方を式に表すことが、よくできていました。

◇角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて書くことが、よくできていました。

◆直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係についての理解に課題がありました。

(3) 変化と関係について

◇速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察すること、速さの意味について理解することがよくできていました。

◆道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がありました。

(4) データの活用について

◇円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることが、よくできていました。

◇簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することがおおむねできていました。

◆示された情報をもとに、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断することに課題がありました。

各教科の結果のまとめ

国語については、全体的によくできていました。学習指導要領で示された国語の力を、着実に身につけてきています。

課題がみられた漢字の習得については、前の学年までに学習した漢字を復習したり、日常生活で使ったりするよう指導します。主語と述語の関係だけでなく、修飾語や接続語、指示語などの役割を含め、言葉の用い方に気を付けたり、書く活動・読む活動を通して理解を深めたりできるようにしていきます。

おおむねできていた「書くこと」についても、相手や目的をいっそう意識し、自分の考えを明確に伝えることができるよう、指導を工夫します。

算数についても、全体的によくできていました。学習指導要領で示された算数の力を、着実に身につけてきています。

課題が見られたのは、図形や単位量当たりの大きさ(速さなど)、データの活用についてです。身の回りにある図形や立体を調べるなど、具体的な活動を通して深く理解し活用できるよう指導を工夫します。速さの計算はできているので、道のりと時間、速さとの関係について、言葉や式を使って説明する活動を重視します。データを読み取る際には、興味や気づきから生じた疑問を解決できるような問題場面を設定するようにします。

具体的な課題の改善だけでなく、大切なのは本校でめざしている主体的・対話的で深い学びの実現です。授業改善を進めるために、

①日常生活に関連づけ、相手や目的、場面の明確な、必然性のある課題や活動を設定する。

②対話を通して学びを交流し、学んだことを振り返って確かめる。

この2点に重点をおいて取り組みます。

また、今回の調査において、無回答はほとんどありませんでした。複数の資料を活用して考えたり、記述したりすることが必要な問題にも、ねばり強く取り組むことができていました。この姿勢を大切に、今後も児童の主体性を引き出し、学ぶ意欲を伸ばしていけるよう取り組みます。

3 質問紙

この調査では、基本的な生活習慣や学習習慣、規範意識、自己有用感、地域や社会に関わる活動、授業への取組状況等、多岐にわたる質問に答えています。その中で、スクールプランにかかわる質問への回答状況は、以下のようになっていました。

(1)「創造的な学びづくり」に関する質問について

- ◇「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対して
 - ほとんどの児童が「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えました。
- ◇「毎日の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対して
 - 「よくある」「ときどきある」と答えた児童がほとんどで、「全くない」と答えた児童はいませんでした。
- ◇「友達関係に満足していますか」という質問に対して
 - 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童がほとんどでした。「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童が少しいました。
- ◇「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」という質問に対して
 - 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童がほとんどでした。
- ◆「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対して
 - 「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童が半数ほどいました。
- ◆「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して
 - 「守っていない」「約束はない」と答えた児童が一定数いました。

以上の点から、児童はおおむね主体的に考え、すすんで活動すること、友達とかかわり合いながら学校生活を過ごすことができているようです。

健康な体や健康な生活を自らつくっていくために、学んだことを生かそうとする姿勢も身についているようです。

一方で、友達関係に満足できていない児童、困りごとや不安をいつでも相談することができないと捉えている児童がいます。これまでも心のお天気調べやいじめアンケート、教員やスクールカウンセラーとの面談など、教育相談活動には力を入れてきましたが、いっそう児童の様子に目を配り、いつでも困り感に対応できる環境づくりに努めます。

また、本校では昨年度からデジタルシティズンシップ教育に取り組んでいます。メディア利用について家族と話し合ってルールを決めたり、チェックしたりしていますが、十分ではないことがわかりました。健康な生活をつくっていくには、時間の使い方は重要です。この問題について、子どもたちはもちろん、ご家族のみなさまといっしょに考えていきたいと思ひます。

(2)「主体的な学びづくり」に関する質問について

- ◇「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して
→「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童がほとんどで、「当てはまらない」と答えた児童はいませんでした。
- ◇「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか」という質問に対して
→「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童がほとんどで、「当てはまらない」と答えた児童はいませんでした。
- ◇「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対して
→「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童がほとんどでした。
- ◆「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対して
→「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と答えた児童が半数を超えていましたが、「どちらかといえば発表していなかった」「発表していなかった」と答えた児童もいました。
- ◆「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか」という質問に対して
→「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童がほとんどでしたが、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童もいました。
- ◆「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して
→「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童がほとんどでしたが、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童もいました。

以上のように、児童はおおむね授業に主体的に参加し、対話を通して学んでいるようです。学習したことを振り返り、次の学習に生かすこともできているようです。

しかし、工夫して発表することや、学んだことを実生活に結び付けたり生かしたりすることには課題があり、いっそうの授業改善が必要です。見方・考え方を明確にして学びを深めたり、学んだことが生かされると実感できるようなカリキュラムの改善に努めます。

また、地域や社会をよくするために何かしたいという思いはやや低調でした。家庭や地域のみなさまと連携・協働し、地域のよさを生かしたふるさと学習のカリキュラムを改善して、ふるさとを大切に、ふるさとのために行動できる子どもたちに育てていきたいです。

保護者・地域みなさまへ

今年度の調査結果から、教科の学力が向上していることが分かりました。しかし、まだ課題はあり、改善が必要です。

学習指導要領が示す「生きる力」は、各教科等の特性をふまえ、主体的・対話的に深く学ぶことによって、知識や技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等をバランスよく育てることをめざすものです。そのためには、授業を改善することが大切です。全教職員で研究をすすめ、着実な授業改善に取り組めます。

また、メディアの利用や地域社会とのかかわりなどの課題は、ご家庭や地域みなさまと共有し、改善に向けて取り組んでいきたいと思えます。

「生きる力」を育むには、学校での学びを日常生活に活用したり、ご家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることも大切です。お子さんがどんなことを学んでいるかについて、ぜひ話題にしてみてください。また、ご家庭や地域での過ごし方についても、お子さんといっしょに考えてみてください。

今後も、保護者のみなさまや地域みなさまのお力添えをお願いいたします。